

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会

令和 6 年度 総会

(書面開催)

次 第

報告事項

- 令和 5 年度事業の実施結果 (資料 1)
- 世界農業遺産保全計画の進捗状況 (資料 2)
- 次期世界農業遺産保全計画の策定 (資料 3)
- 世界農業遺産の活用 (令和 6 年度事業の実施計画) (資料 4)

※ 令和 6 年度総会につきましては、幹事会の判断のもと、この度の総会を書面での報告に代えさせていただくこととなりました。御意見・御提案等ございましたら、随時、事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

(協議会事務局：滋賀県農政水産部農政課)

〒520-8577 大津市京町 4 - 1 - 1

TEL 077-528-3825 / FAX:077-528-4880

E-mail:shiga-giahs@pref.shiga.lg.jp



令和5年度事業の概要

世界農業遺産認定証授与式への参加

日 時： 令和5年5月22日(月)

場 所： イタリア・ローマ

内 容： 認定証の授与、各認定地域の
展示による紹介・製品の試食など

参加地域： 12か国24地域



展示イベント



認定証授与式



試食イベント



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

世界農業遺産認定1周年記念祭

日 時： 令和5年10月21日(土)

場 所： アグリパーク竜王

内 容： 一般の方に琵琶湖システムを知ってもらうことを目的に、生産者らによる
リレートーク、マルシェ、ワークショップなどを開催

来場者： 約120人



リレートーク(生産者、事業者学生等による発表)



マルシェ (湖魚料理の販売)



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

琵琶湖システム体感イベント（委託）

委託先： エフエム滋賀

内 容： クイズラリー、○×クイズ、子ども向け紙芝居、県産農水産物マルシェ

日 時： 10月14日(土) 矢橋帰帆島（来場者数：約440人）

11月12日(日) 三井アウトレットパーク 滋賀竜王（来場者数：約140人）



クイズラリー



県産農水産物マルシェ



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

琵琶湖システム体感イベント（滋賀県によるブース出展）

時 期： 5月～11月

回 数： 計12回（県内各地）

内 容： パネル展示、お米すくい（ノベルティ配布）、ぬり絵、など



ぬり絵コーナー
（2023スプリングフェスタ、矢橋帰帆島）



お米すくい
（イナズマロックフェス、烏丸半島）



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

琵琶湖システムキッチンの開催

日 時： 令和5年 7月19日（4事業者＋PRブース）

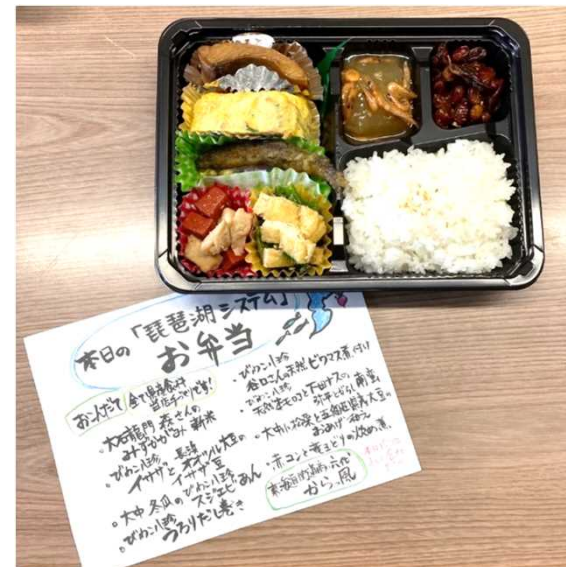
令和5年10月11日（4事業者＋PRブース）

場 所： 滋賀県庁正面玄関前

内 容： 「琵琶湖システム」がもたらす豊かな“食”を感じてもらうため、
琵琶湖の魚や県産食材を使ったお弁当を販売



事業者による販売風景



湖魚等を使ったお弁当



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

商業施設での販促キャンペーンの実施

日 時：令和5年9月27日～10月10日

場 所：近鉄百貨店草津店

内 容：魚のゆりかご水田米関連商品の販売

和歌山県「みなべ・田辺の梅システム」関連商品販売

(関西の世界農業遺産認定地域との連携企画)



「琵琶湖システム」と「梅システム」のコラボ



「琵琶湖システム」の売り場



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖・システム

関連施設でのギャラリー展示

- (1) 県庁県民サロン（5月30日～6月22日）
- (2) アルプラザ草津 ヤシの木広場（7月1日）
- (3) 県立図書館（7月1日～23日）
- (4) 大津市立図書館（10月27日～11月14日）



県民サロン展示



アルプラザ草津 ヤシの木広場



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

シンポジウムへの参加

対象：静岡県、石川県、大分県（基調講演・パネルディスカッションなど）

東京（国際シンポジウム、基調講演・事例紹介、討論）

時期：10～11月



石川県主催シンポジウム
（農業遺産地域連携会議の発足）



FAO主催の国際シンポジウム
（東京、ZOOM配信）



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

東アジア農業遺産学会への参加

日 時：令和5年6月6～8日

場 所：中国 浙江省 麗水市 慶元県

参加地域：日本、中国、韓国ほか、東南アジア諸国

参加人数：約150人

内 容：口頭・ポスター発表、現地視察



口頭発表による「琵琶湖システム」の紹介



ポスター発表会場



木・里・湖 に育まれる 漁業と農産物が織りなす
琵琶湖システム

出前講座

時 期：5月～1月

対 象：小中学校、大学、企業、団体など

回 数：31回

受講者数：約2,100人

内 容：琵琶湖システムに関する講義



ツアー参加者への講義



小学校への講義



大学生への講義



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

視察対応等

対象：国内 氷見市、他県の県議会

海外 FAO事務局次長、ウズベキスタン、ベトナムなど

件数：10件（国内3件、海外7件）



ベトナムの視察団



FAO事務局次長による視察(琵琶湖博物館)



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖・システム

びわ湖魚グルメ（新ご当地グルメ開発プロジェクト）

○びわ湖魚グルメ

- ・「湖魚」と「県産農産物」を掛け合わせた滋賀のご当地グルメ
- ・2024年2月7日にお披露目

○新ご当地グルメ開発プロジェクト

- ・生産者が知る滋賀食材の魅力を、飲食・宿泊事業者を通じて、消費者へ届けることが目的
- ・ワークショップの開催や生産現場を訪れるなどしたうえで、各店舗で新メニューを開発
- ・今後、各店舗で年間を通じて、季節ごとのメニューを提供予定



「びわ湖魚グルメ」お披露目会



お披露目された料理



琵琶湖に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

SNSによる情報発信、モニターキャンペーンの実施

○Instagramフォロワー数：2,152名（令和6年3月28日現在）

→令和5年4月から**1,200名増加！！**

○Instagramモニターキャンペーン&フォトコンテスト（全4回）

第1回：近江の茶 第2回：びわます 第3回：みずかがみ 第4回：みおしずく



いいね！68件
popont12345 今回ご縁がありまして... 続きを読む
2023年6月24日



いいね！49件
shimizu.camp... 続きを読む
2023年8月27日



いいね！149件
kubiindy 琵琶湖システム様よりみずかがみをいた... 続きを読む
2023年11月3日



「いいね！」を見る
mikohiromogu いちこのカスタードタルト。
滋賀県農政課様@shigagiahs 主催の「琵琶湖システム」モニターキャンペーンにて、今年本格デビューした滋賀県オリジナルいちご「みおしずく」を頂きました。
ありがとうございます😊
みおしずくは章姫とかおり野の交配により誕生。
香りがすこく良いんです。
まずそのまま食べてみたら甘味・酸味のバランスが良くて、とってもジューシー♡



木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

学習教材等の作成

○小学生向け学習教材(デジタルブック)の作成

- ・環境学習やびわ湖フローティングスクールの学習等での利用を想定して作成



○小中学生向けPR動画の作成

- ・小中学生向けの動画コンテンツ
- ・デジタルブックと連動した利用を想定



○テレビ番組「近江の宝 琵琶湖システム」の制作

- ・世界農業遺産「琵琶湖システム」の魅力と価値を発信
- ・びわ湖放送、YouTubeで配信、全10回





木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

琵琶湖システム広報大使制度の設置

趣 旨：認知度の向上やイメージアップを
図ることを目的として設置（R5）

就任者：青田朋恵氏（元滋賀県農政課長）



広報大使就任式（令和5年10月21日）

月日	R5の主な活動内容
11/26	魚のゆりかご水田シンポジウム（大津市）
12/16	滋賀県食事文化研究会での講演（大津市）
12/17	エコツーリズム研究会理事会での講演（長浜市）
1/18	食の文化シンポジウムへの参加（東京）
1/29	JICA現地（魚のゆりかご水田）視察対応（野洲市）
1/30	Youtubeニュース番組「びわモニ」出演
2/5	出前講座（沖島小学校）
2/24	鮒ずしを味わい尽くす会での講演（高島市）
3/31	スーパーホテル草津国道1号沿での講演





木・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム



ロゴマークの活用

利用実績：令和5年度：52件

令和2年度からの累計208件

利用者：県、市町、農業者、企業、団体



お弁当のパッケージ



米袋



ホテルでの館内表示



琵琶湖に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

世界農業遺産保全計画 進捗状況

世界農業遺産



「森・里・湖」に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

水田営農に支えられながら発展してきた伝統的漁業を核とした「琵琶湖と共生する農林水産業」を「森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」と呼んでおり、令和4年7月18日に「世界農業遺産」に認定された。

このシステムは1,000年以上にわたる歴史の中で育まれた自然と人の持続的な共生モデルといえるものであり、この伝統的なシステムを継承することは、当地域に住む私たちに課せられた「責務」であると考えている。

林業

水源林の保全

水源林の保全には、漁業者や地域住民も参画している。山に木を植えて育てることが洪水や渇水を防ぐことに役立っているほか、川に上って産卵する湖魚の繁殖環境の保全にもつながっている。



水源林保全活動

農業

環境に配慮した農業

琵琶湖の水質や生態系を守るため、排水を管理し農薬や化学肥料を減らす「環境こだわり農業」やオーガニック農業、琵琶湖から田んぼに遡上して産卵する湖魚を支える「魚のゆりかご水田」などが営まれている。

漁業

伝統的な琵琶湖漁業

千年以上の歴史を持つエリ漁は、魚の習性を利用し、「つぼ」と呼ばれる部分で漁獲する。必要なサイズ・量だけを漁獲できる持続可能な漁法として、現代に受け継がれている。



琵琶湖のエリ(定置網)と湖岸に広がる水田



鮒ずし



すし切り神事

食文化

伝統的な食文化とお祭り

「鮒ずし」に代表される湖魚をご飯に漬け込んで発酵させる保存食「なれずし」は、贈り物や祭礼のお供えにも使われてきた。こうした食文化や祭礼は、地域の絆の醸成にもつながっている。

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業は、国連の定めた持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標の達成に寄与しており、特に「6 安全な水を世界に」、「14 水産資源の保全」、「15 陸域生態系の保全」、「17 パートナリーシップで目標を到達しよう」などの達成にも貢献しています。

また、琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ(MLGs)にも、大いに貢献しています。





米・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖・システム

世界農業遺産保全計画（持続性を高める4本の柱）

近年、システムを弱体化させる様々な脅威に直面している。このため、脅威を4つの項目に分け、そこから導き出された課題に対応するため、保全計画に記述した「育てる」「守る」「伝える」「広める」「活かす」取組を進め、このシステムを次世代に継承していく。

脅威1 湖魚の産卵・成育環境の変化

（外来魚による食害、水草の異常繁茂、気候変動など）

- 資源管理型漁業の推進
- 食害の防除
- 産卵環境等の保全
- 環境こだわり農業
- 水源林の保全



資源管理
のチラシ

脅威2 担い手の減少

- 農業・漁業・林業における担い手の確保
- 6次産業化の推進
（農林水産業の魅力向上）



漁業研修

脅威3 食文化の衰退

- 湖魚を用いた食文化の継承と発展



漁業体験
調理体験

脅威4 社会組織の弱体化

- 人々の連携の推進
- 自然と人との関わり強化
- ツーリズムとの連携
- 世界とのさらなる連携



- 〈将来展望〉
- ① 多様な主体の一層の参画
 - ② 水質・生態系保全等を通じた内水面漁業と農業の両立
 - ③ 湖と陸のつながりを重視する価値の発信とさらなる国際貢献



米・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖・システム

世界農業遺産保全計画（持続性を高める4本の柱）

近年、システムを弱体化させる様々な脅威に直面している。このため、脅威を4つの項目に分け、そこから導き出された課題に対応するため、保全計画に記述した「育てる」「守る」「伝える」「広める」「活かす」取組を進め、このシステムを次世代に継承していく。

脅威1 湖魚の産卵・成育環境の変化

（外来魚による食害、水草の異常繁茂、気候変動など）

- 資源管理型漁業の推進
- 食害の防除
- 産卵環境等の保全
- 環境こだわり農業
- 水源林の保全



資源管理
のチラシ

脅威2 担い手の減少

- 農業・漁業・林業における担い手の確保
- 6次産業化の推進
（農林水産業の魅力向上）



漁業研修

脅威3 食文化の衰退

- 湖魚を用いた食文化の継承と発展



漁業体験
調理体験

脅威4 社会組織の弱体化

- 人々の連携の推進
- 自然と人との関わり強化
- ツーリズムとの連携
- 世界とのさらなる連携



〈将来展望〉

- ① 多様な主体の一層の参画
- ② 水質・生態系保全等を通じた内水面漁業と農業の両立
- ③ 湖と陸のつながりを重視する価値の発信とさらなる国際貢献

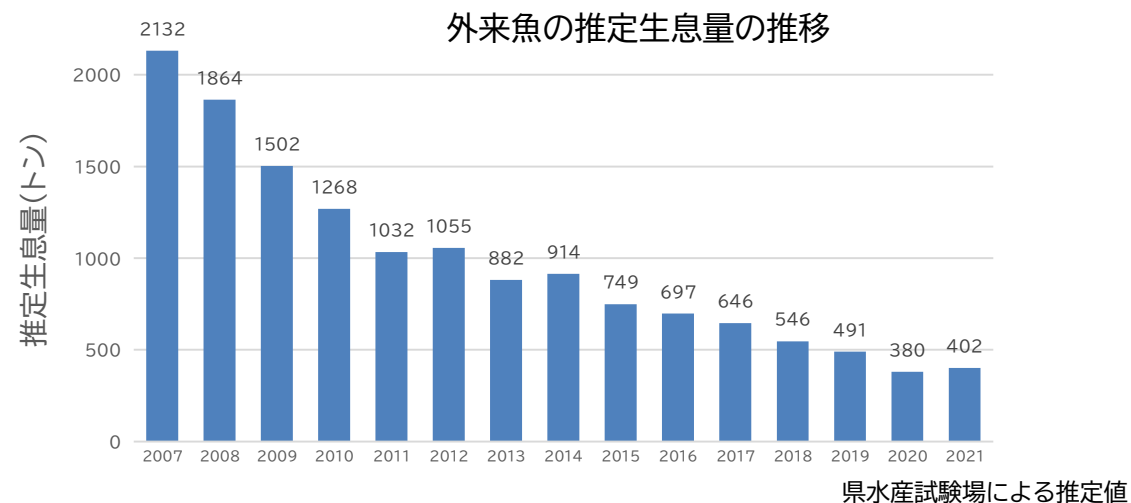
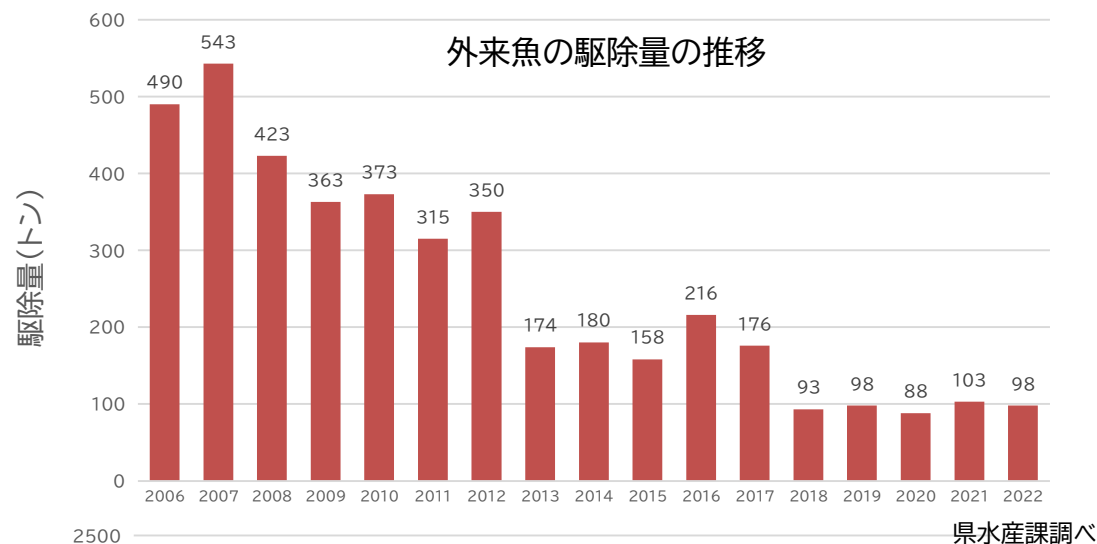
脅威！湖魚の産卵・成育環境の変化 外来魚対策（食害の防除）



刺網による外来魚の駆除



電気ショッカーボートによる外来魚の駆除

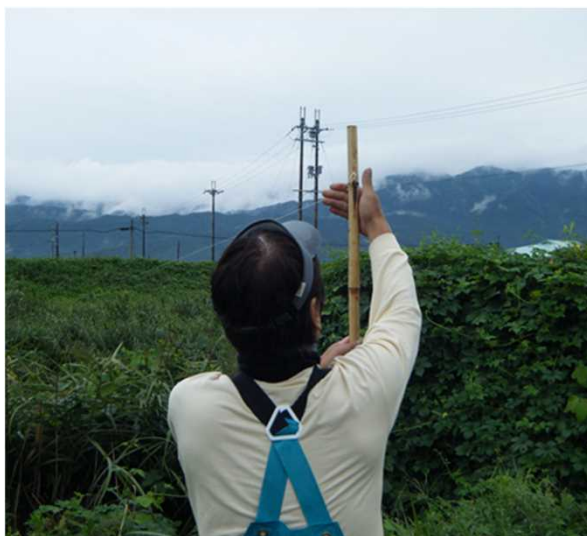


- 外来魚の生息量は減少傾向にある（目標達成）
- 今後も引き続き、生息量の低減に努める

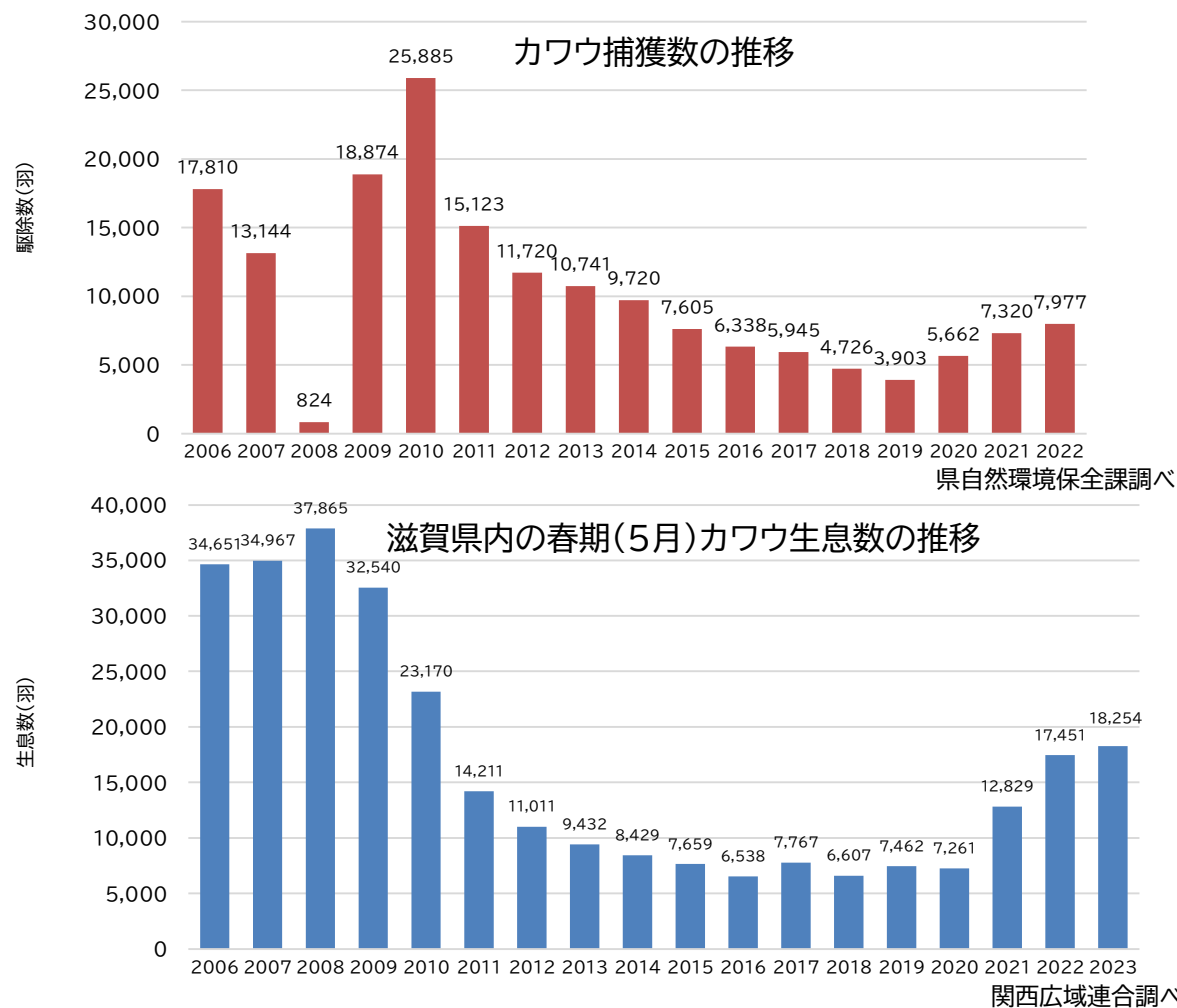
脅威！湖魚の産卵・成育環境の変化 カワウ対策（食害の防除）



銃器によるカワウ駆除



カワウ防鳥糸を設置する漁業者（河川）



- カワウ春期生息数の目標値4,000羽を超過(目標不達成)
- ねぐら・コロニーの分布管理の考え方に基づいた体制を構築することにより、被害の軽減を目指す

脅威！湖魚の産卵・成育環境の変化 ヨシ帯の再生・保全（湖魚の産卵環境等の保全）

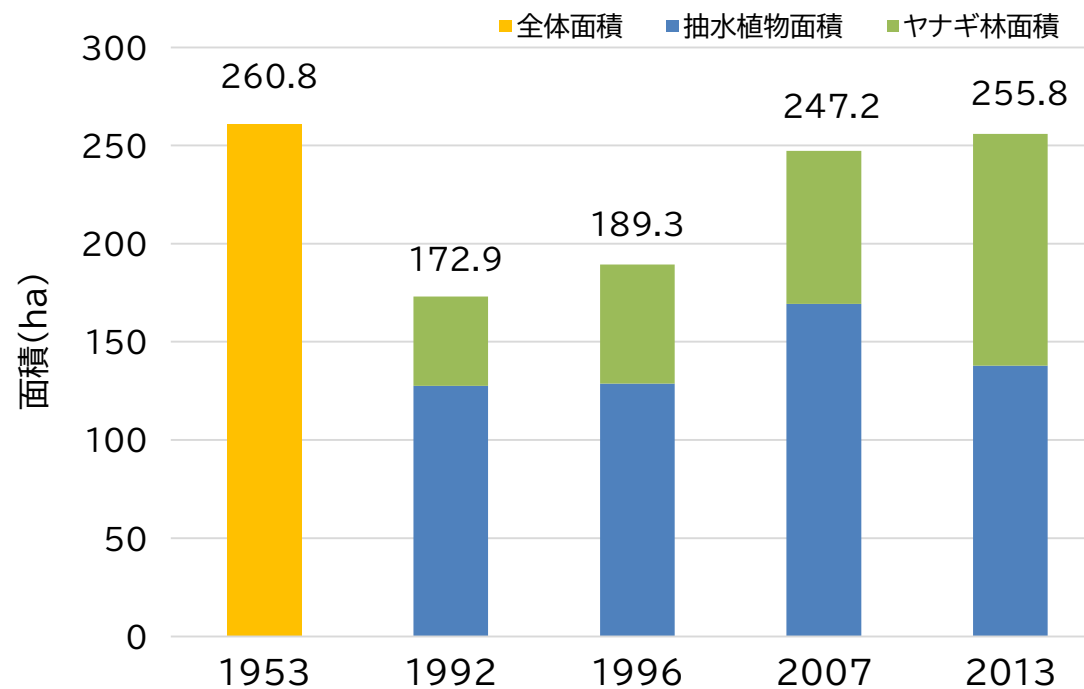


ヨシ帯の造成作業



ボランティアによるヨシ刈り

琵琶湖湖岸ヨシ群落面積の推移



県琵琶湖保全再生課調べ

- 琵琶湖のヨシ群落の面積は昭和28年と同程度にまで回復し、魚類の産卵繁殖場の確保ができた
- 今後は、ヤナギ等による機能低下への対応、事業者やボランティア等による保全活動を広げるための取組を進めていく



琵琶湖に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

脅威！ 湖魚の産卵・成育環境の変化 水草の刈り取り（湖魚の産卵環境等の保全）

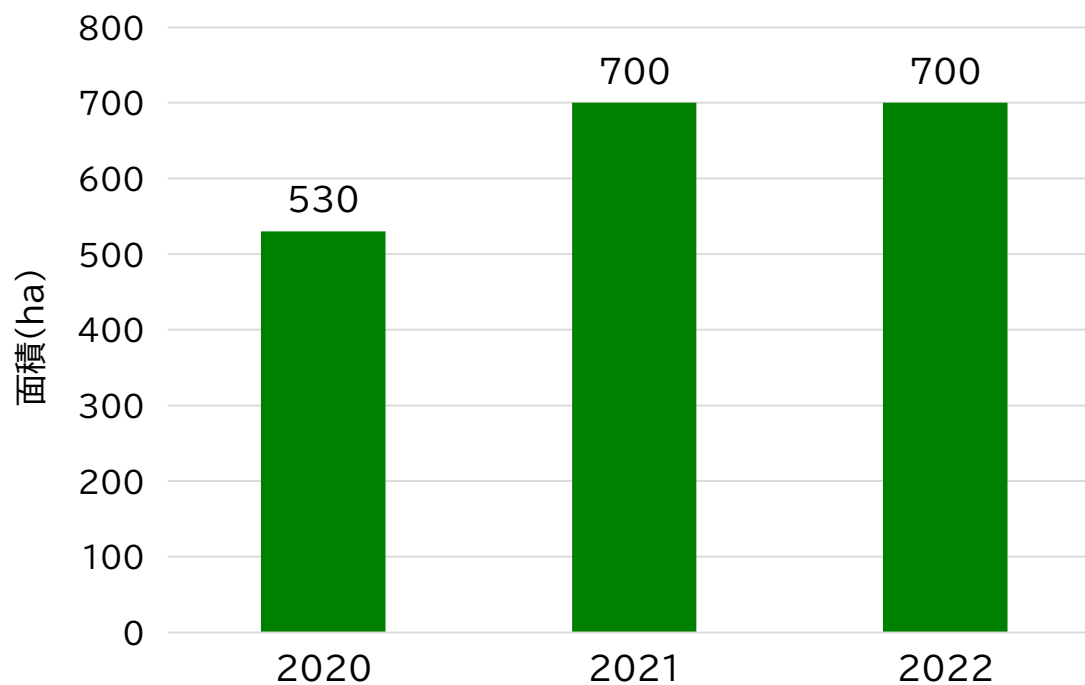


マンガンを用いた漁業者による根こそぎ除去



刈取船による水草の表層刈り取り

水草根こそぎ除去面積の推移



県琵琶湖保全再生課調べ

- 水草の繁茂面積は望ましい状況を達成している
- 水草の種組成においては望ましい状況が達成されていない
- 今後も調査と根こそぎ除去、表層刈り取りを継続していく

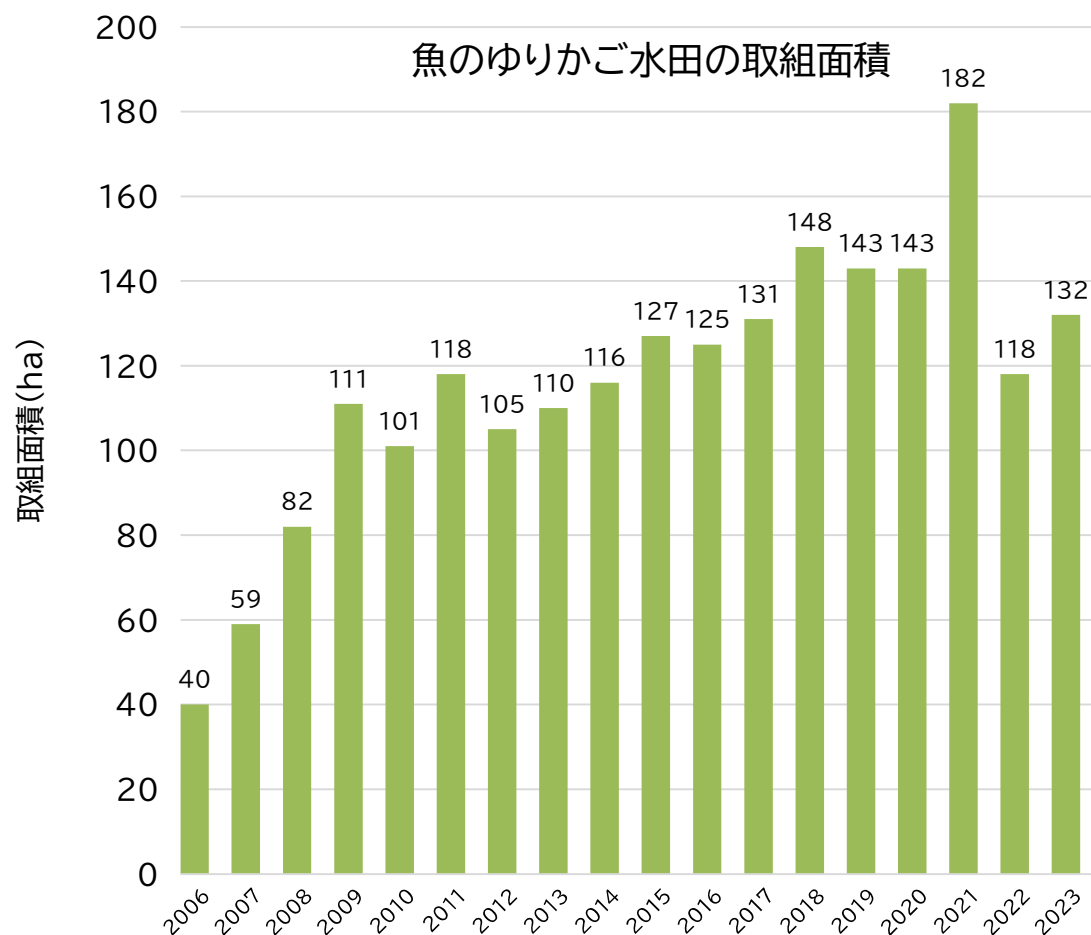
脅威！湖魚の産卵・成育環境の変化 魚のゆりかご水田（湖魚の産卵環境等の保全）



水路を遡上するコイ



魚のゆりかご水田から流下した稚魚

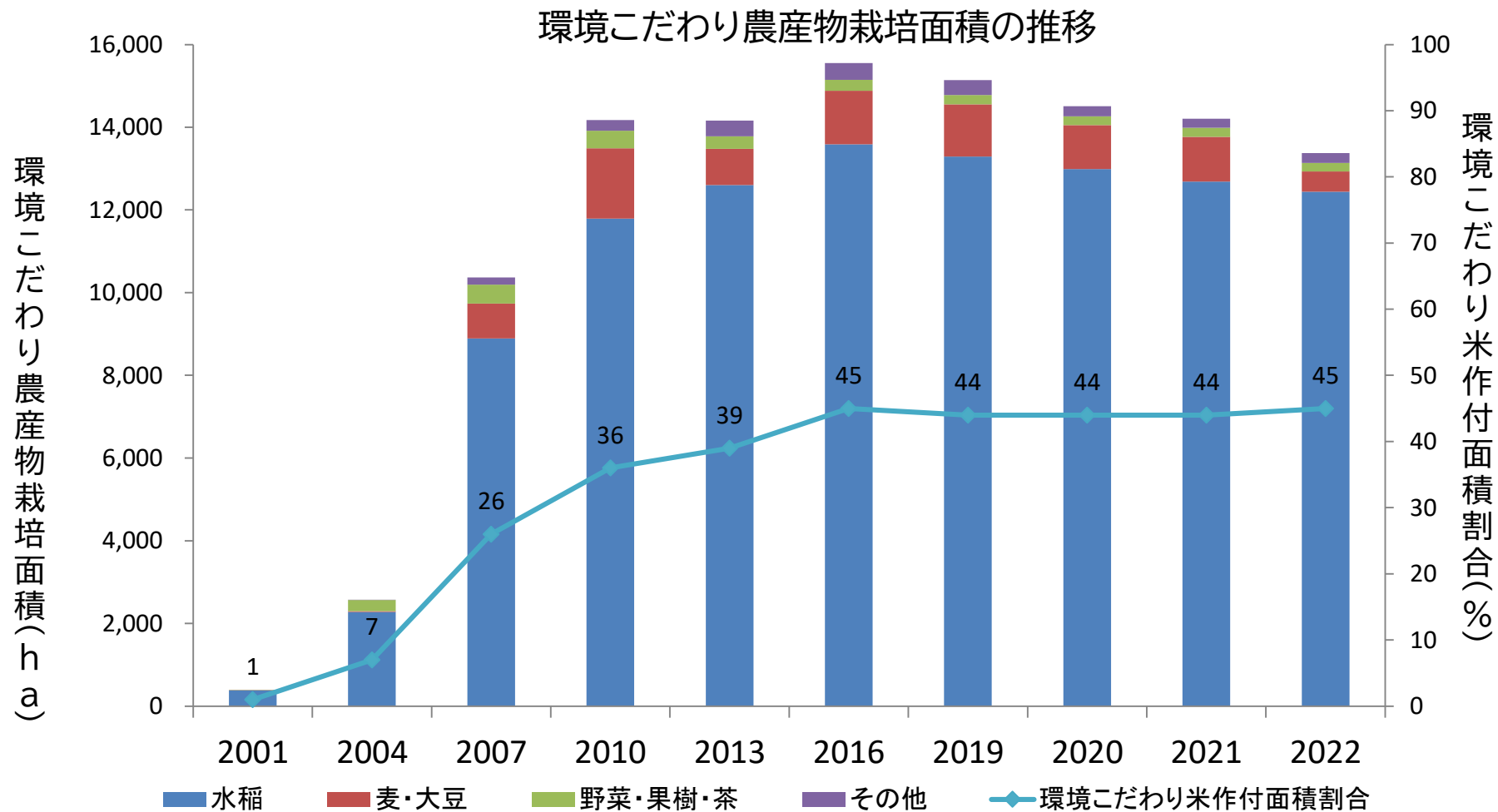


県農村振興課調べ

- 農家や農地面積が減少する中、魚のゆりかご水田の取組面積は維持できている
- 新たに取り組む農業者や地域もあり、取組が広がりつつある



脅威！ 湖魚の産卵・成育環境の変化 水質・生態系の保全に向けた環境こだわり農業



県みらいの農業振興課調べ

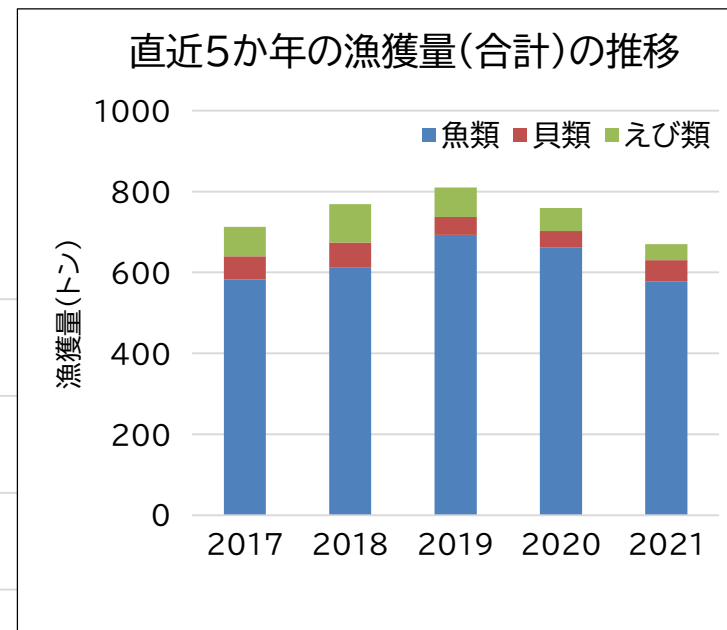
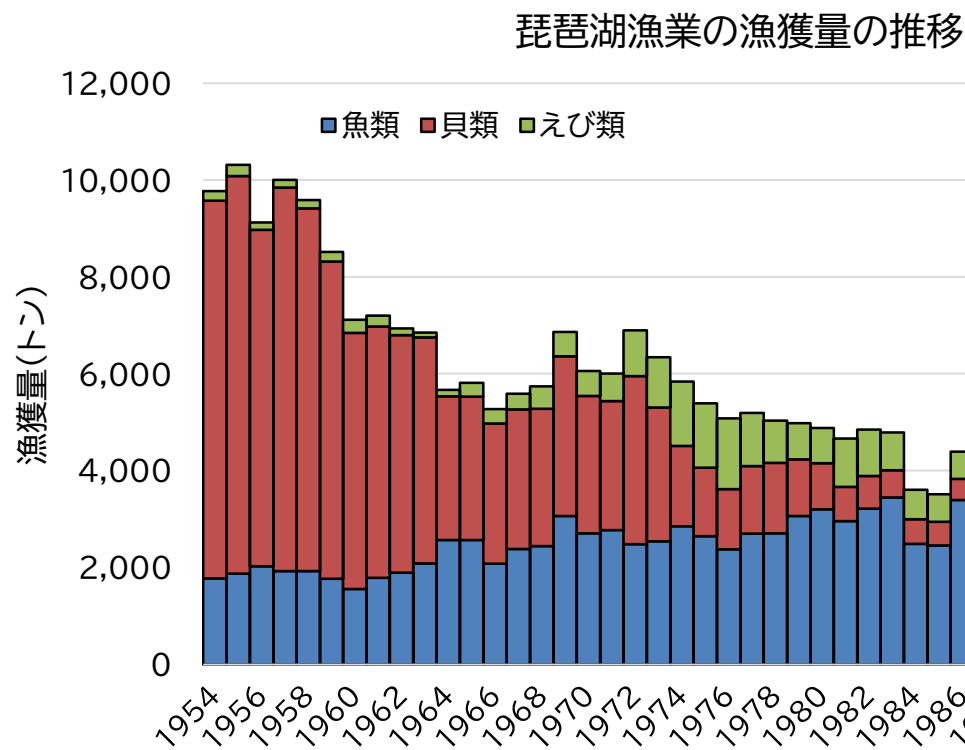
●水質・生態系の保全に向けた魚のゆりかご水田の取組面積や環境こだわり農産物栽培面積は高い水準で維持できている



琵琶湖に育まれる 漁業と観光が織りなす
琵琶湖システム

脅威！ 湖魚の産卵・成育環境の変化

水産資源の保全管理



出典：内水面漁業生産統計調査（農林水産省）

- 琵琶湖漁業の漁獲量については、依然として低い水準にある（目標未達成）
- 資源の回復を図るため、引き続き、資源管理や種苗放流、漁場環境改善等に取り組んでいく

脅威！ 湖魚の産卵・成育環境の変化

取組の推進によるホンモロコ資源の回復

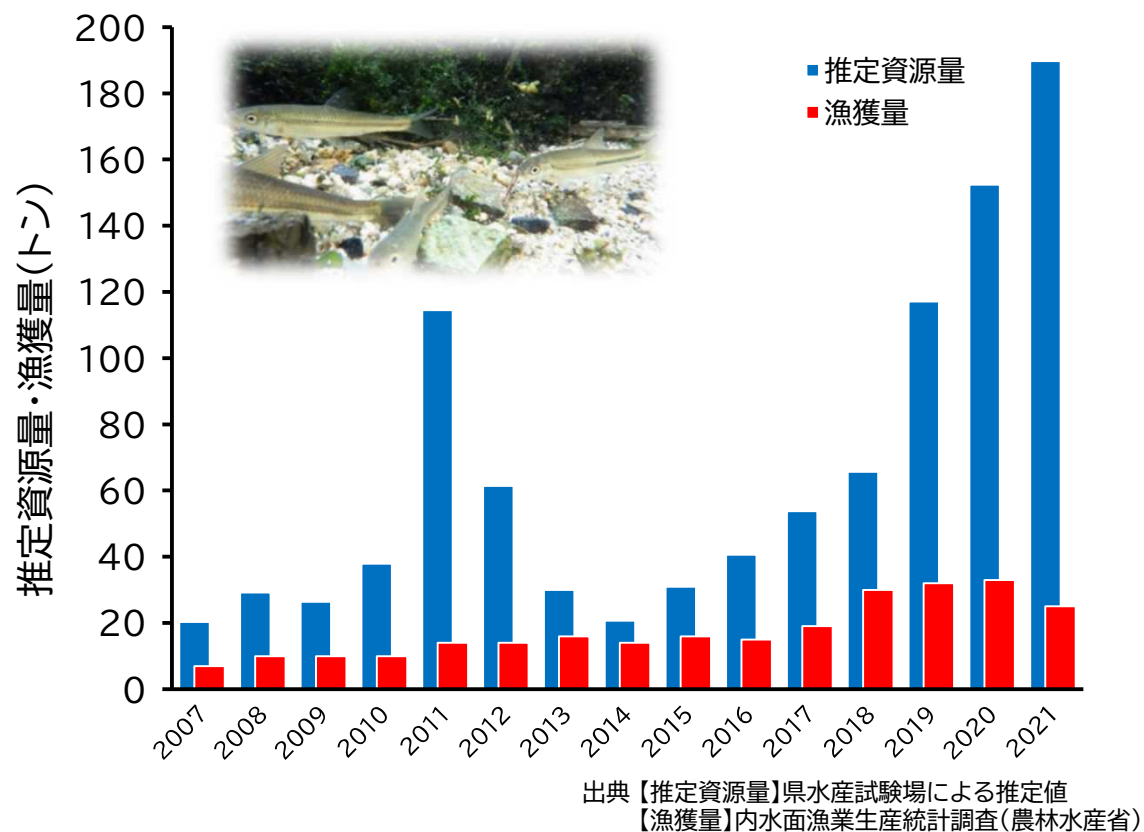


ホンモロコの種苗放流



漁業者検討会

ホンモロコの推定資源量および漁獲量



- 外来魚駆除や産卵場整備、種苗の放流、資源管理などの様々な取組により、近年、資源が回復傾向にある
- 需要が回復していないため、流通対策にも取り組む

脅威！ 湖魚の産卵・成育環境の変化

多様な主体の協働による水源林保全

伝統的琵琶湖漁業は多様な主体
の参画による水源林保全活動に
支えられている



漁業者が林業者や地域住民とともに
植林を行う「漁民の森」活動



企業が参画する
「琵琶湖森林づくりパートナー協定」の取組



大きな水源涵養力を有する
トチノキの巨木群の保全



米・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖・システム

世界農業遺産保全計画（持続性を高める4本の柱）

近年、システムを弱体化させる様々な脅威に直面している。このため、脅威を4つの項目に分け、そこから導き出された課題に対応するため、保全計画に記述した「育てる」「守る」「伝える」「広める」「活かす」取組を進め、このシステムを次世代に継承していく。

脅威1 湖魚の産卵・成育環境の変化

（外来魚による食害、水草の異常繁茂、気候変動など）

- 資源管理型漁業の推進
- 食害の防除
- 産卵環境等の保全
- 環境こだわり農業
- 水源林の保全



資源管理
のチラシ

脅威2 担い手の減少

- 農業・漁業・林業における担い手の確保
- 6次産業化の推進
（農林水産業の魅力向上）



漁業研修

脅威3 食文化の衰退

- 湖魚を用いた食文化の継承と発展



漁業体験
調理体験

脅威4 社会組織の弱体化

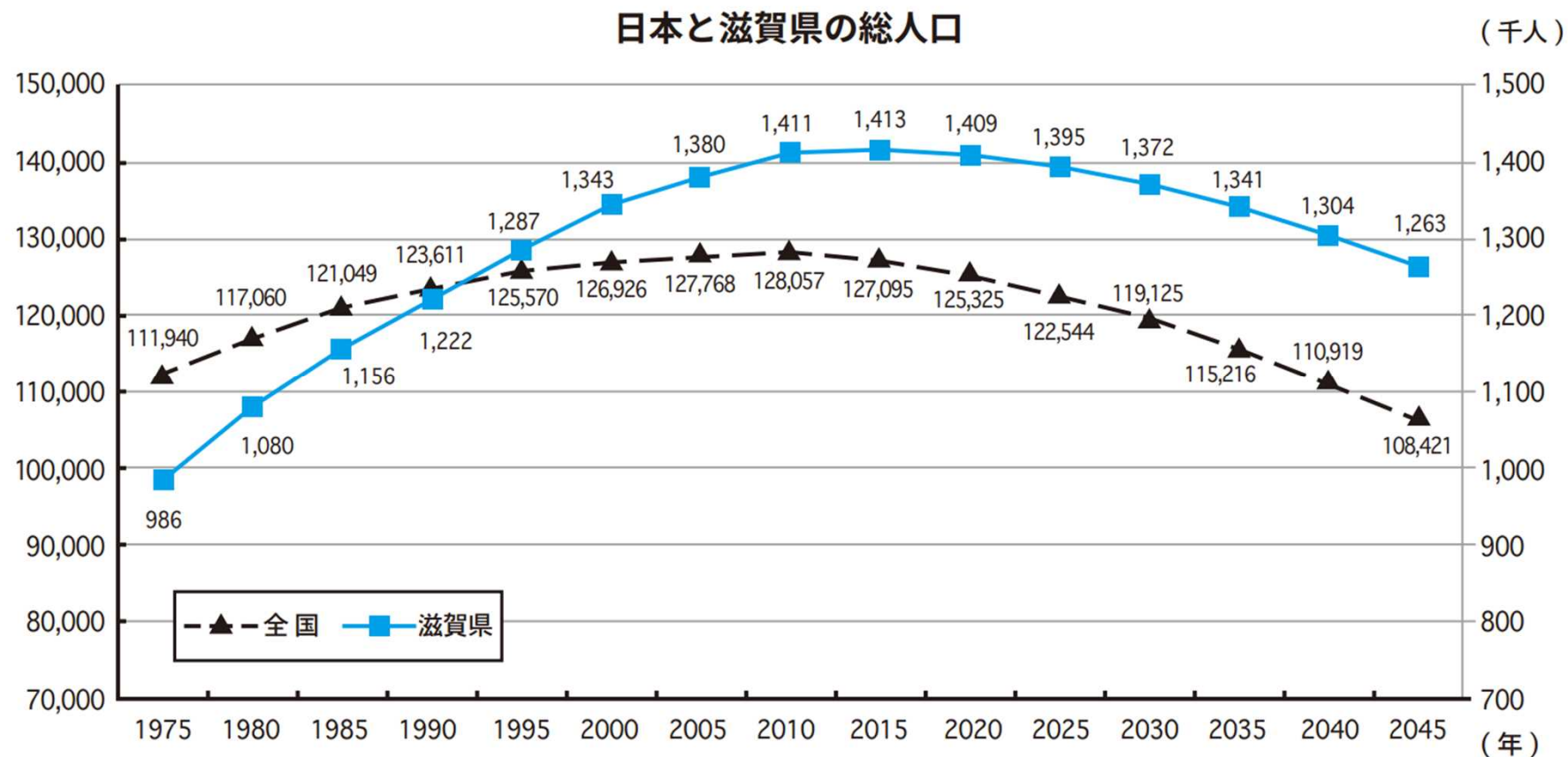
- 人々の連携の推進
- 自然と人との関わり強化
- ツーリズムとの連携
- 世界とのさらなる連携



〈将来展望〉

- ① 多様な主体の一層の参画
- ② 水質・生態系保全等を通じた内水面漁業と農業の両立
- ③ 湖と陸のつながりを重視する価値の発信とさらなる国際貢献

脅威2 担い手の減少



出典:滋賀県基本構想「変わる滋賀 続く幸せ」(2019年度～2030年度)

- 滋賀県の人口は、2013 年以降に減少傾向
- 2015 年に約 141 万 3 千人であった人口は、2030 年には約 137 万 2 千人、2045 年には約 126 万 3 千人まで減少する見込み

脅威2 担い手の減少 担い手の確保・育成

農



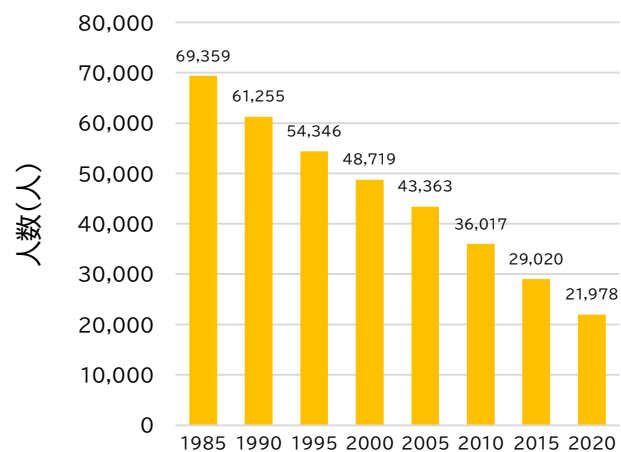
林



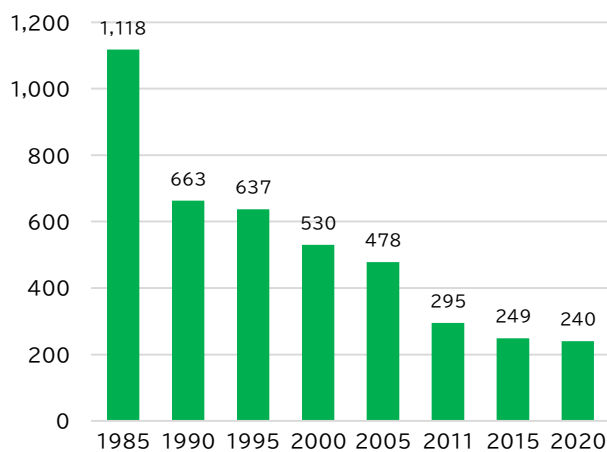
水



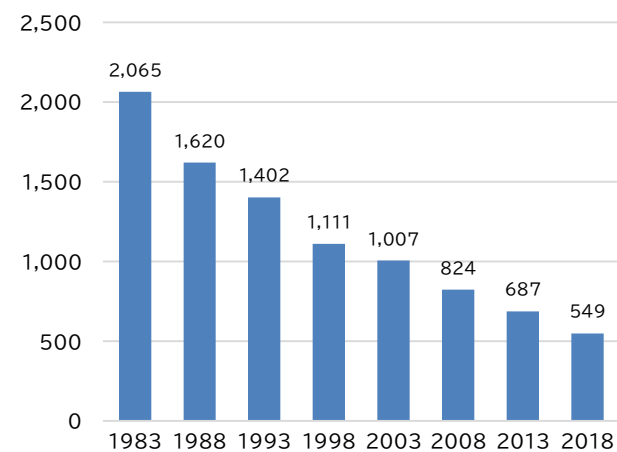
農家数の推移



林業従事者数の推移



漁業就業者数の推移



- 滋賀県でも人口減少が見込まれている
- 農業、林業、漁業とも就業者数は減少傾向にある

出展 【農家数】農林業センサス(農林水産省)
【林業従事者数】滋賀県森林・林業統計要覧(滋賀県)
【漁業就業者数】農林業センサス(農林水産省)

脅威2 担い手の減少 担い手の確保・育成

農



自営就農希望者を対象とした就農準備講座

林



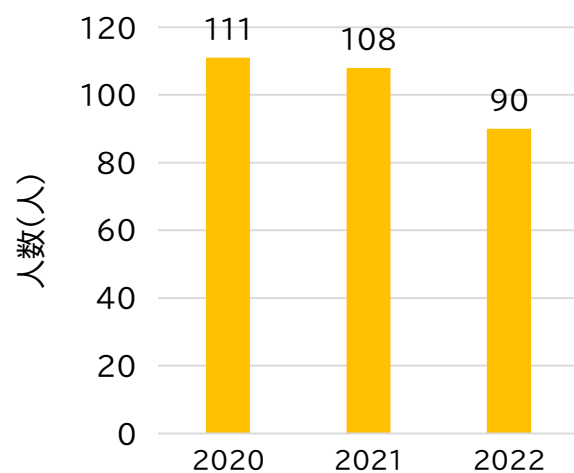
森づくりアカデミーにおける実習

水

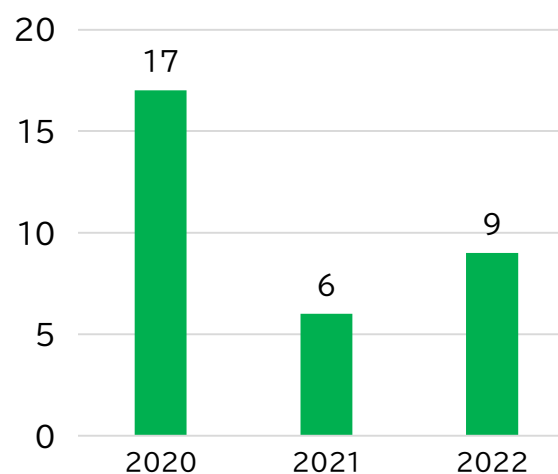


漁業研修

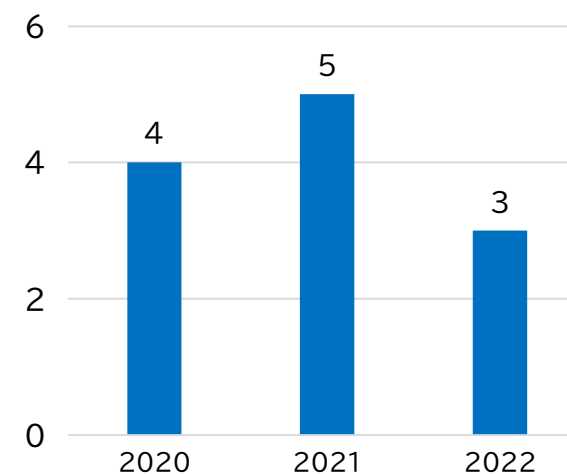
農業の新規就業者数



林業の新規就業者数



水産業の新規就業者数



滋賀県調べ

●毎年、新規就業者の確保はできている(農業:達成 林業:達成 水産業:未達成)

脅威2 担い手の減少 担い手の確保・育成

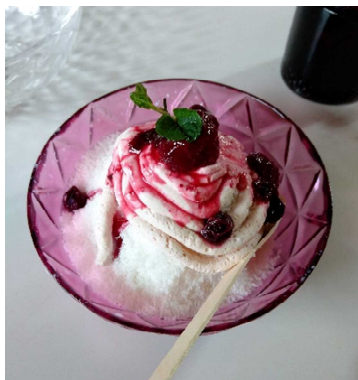
6次産業化、高付加価値化による魅力の向上



- 魚のゆりかご水田米については2019年からは、コープしがでの取り扱いが始まり、2022年からイオンなどの大型商業施設、そごう・西武百貨店のカタログでの取り扱いが始まるなど、販路が拡大しつつある

脅威2 担い手の減少 担い手の確保・育成

6次産業化、高付加価値化による魅力の向上



農園カフェ開園に向けた
新メニュー



伊吹柿を使用した加工品



琵琶湖産コイ科魚類を使用した
新商品(缶詰)の試作品



蓮の葉を使用した
新商品の試作品



畜産部門を活かした新商品



観光イチゴ園の魅力向上に
つなげる加工品

- 農林漁業者等を対象に6次産業化の取組を支援した結果、新たに7事業者が商品やサービスの開発につながった(2022)
- 農商工連携の取組を進めた結果、5事業者において新商品の開発につながった(2022)
- 新たな加工・販売等に取り組む県内実践者数は目標を達成



米・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖・システム

世界農業遺産保全計画（持続性を高める4本の柱）

近年、システムを弱体化させる様々な脅威に直面している。このため、脅威を4つの項目に分け、そこから導き出された課題に対応するため、保全計画に記述した「育てる」「守る」「伝える」「広める」「活かす」取組を進め、このシステムを次世代に継承していく。

脅威1 湖魚の産卵・成育環境の変化

（外来魚による食害、水草の異常繁茂、気候変動など）

- 資源管理型漁業の推進
- 食害の防除
- 産卵環境等の保全
- 環境こだわり農業
- 水源林の保全



資源管理
のチラシ

脅威2 担い手の減少

- 農業・漁業・林業における担い手の確保
- 6次産業化の推進
（農林水産業の魅力向上）



漁業研修

脅威3 食文化の衰退

- 湖魚を用いた食文化の継承と発展



漁業体験
調理体験

脅威4 社会組織の弱体化

- 人々の連携の推進
- 自然と人との関わり強化
- ツーリズムとの連携
- 世界とのさらなる連携



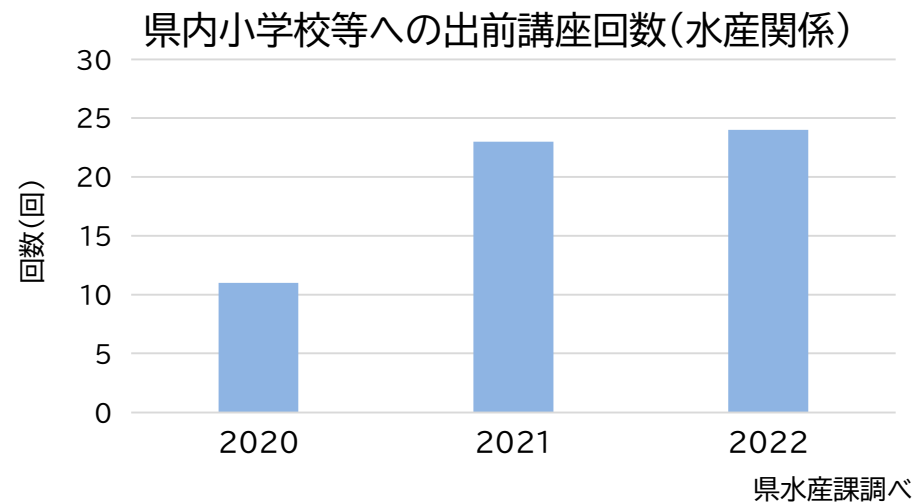
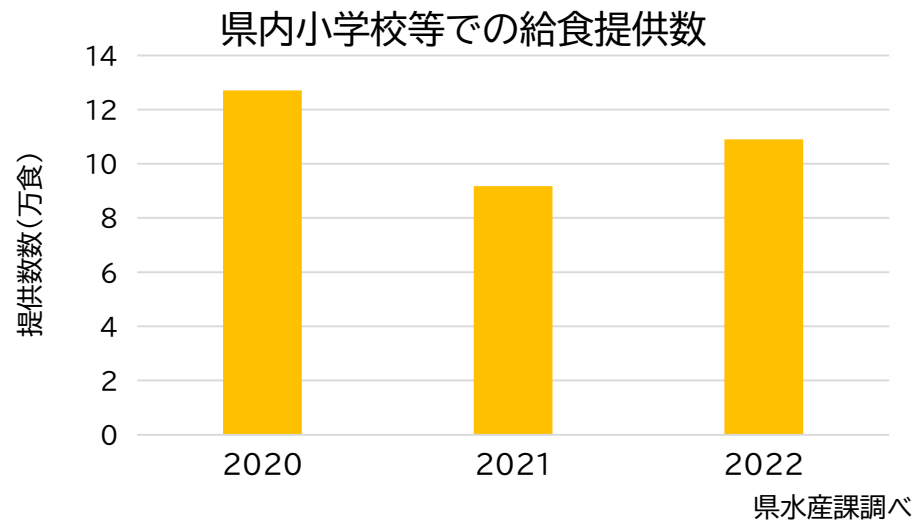
- 〈将来展望〉
- ① 多様な主体の一層の参画
 - ② 水質・生態系保全等を通じた内水面漁業と農業の両立
 - ③ 湖と陸のつながりを重視する価値の発信とさらなる国際貢献

脅威3 食文化の衰退 湖魚を用いた食文化の継承と発展

市町名	令和3年度	
テーマ	心つながるふるさと給食「郷土料理を味わおう」	

栄養価（訂成分表による） （小学生中学年分）	
エネルギー	725 kcal
たんぱく質	21.6 g
脂質	24.8 g
カルシウム	317 mg
マグネシウム	94 mg
鉄	48.9 mg
亜鉛	2.5 mg
ビタミンA	231 μgRE
ビタミンB1	0.24 mg
ビタミンB2	0.38 mg
ビタミンC	10 mg
食物繊維	6.6 g
食塩相当量	2.5 g

料理名	材料（小学生中学年1人分）	作り方
アミノイオごはん	精白米 70 g 五目ごはんの素 20 g <u>びわますフィーレ</u> 10 g	① 洗った米に五目ごはんの素とびわますフィーレを入れ炊飯する。 ② 炊き上がった後、びわますをほぐしながら全体を搅拌均匀する。
牛乳	牛乳 206 g	
かき揚げ	やさいかき揚げ 30 g サラダ油 4 g	① やさいかき揚げを180℃の油で揚げる。
赤こんにゃく煮	赤こんにゃく 50 g こいくちしょうゆ 2.5 g 三温糖 1.5 g 本みりん 3 g 花かつお 0.5 g	① 赤こんにゃくは、一口大の三角形に切る。 ② 湯通しした赤こんにゃくを調味料で煮る。 ③ 最後に花かつおをまぶしてなじませる。
打ち豆汁	打ち豆 3 g にんじん 10 g だいこん 20 g さといも 20 g 豆腐 15 g 油揚げ 5 g 青ねぎ 5 g みそ 3.5 g みそ（県内産） 3 g	① にんじんは3mmちょう切り、大根は短冊切り、里芋は7mmスライス、豆腐はサイコロ、油揚げは短冊 青ねぎは3mm小口切りに切る。 ② だしをとり材料を順次入れて煮る。 ③ みそを溶き入れ、青ねぎを入れてひと煮たちさせ仕上げる。



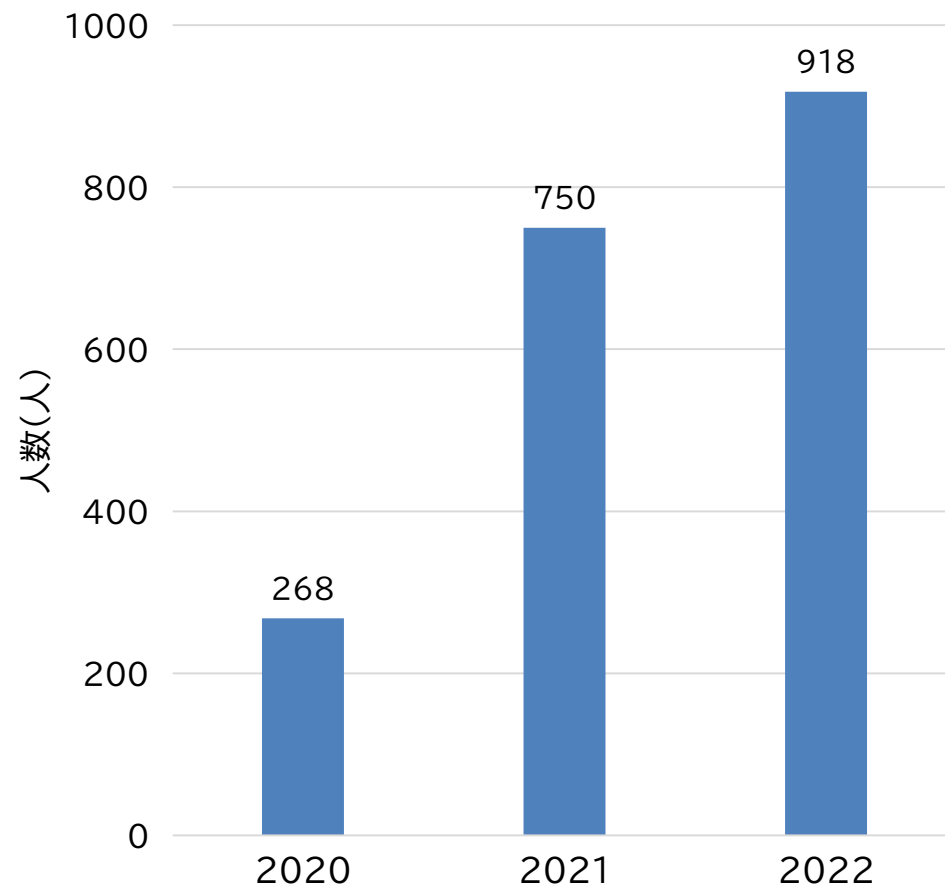
- 子どものころから湖魚を食べる機会を創出
- 給食と合わせて、出前講座で食育を図る

脅威3 食文化の衰退 湖魚を用いた食文化の継承と発展



ふなずし講習会での漬け込み風景

ふなずし講習会への参加人数



県水産課調べ



米・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖システム

脅威3 食文化の衰退 湖魚を用いた食文化の継承と発展

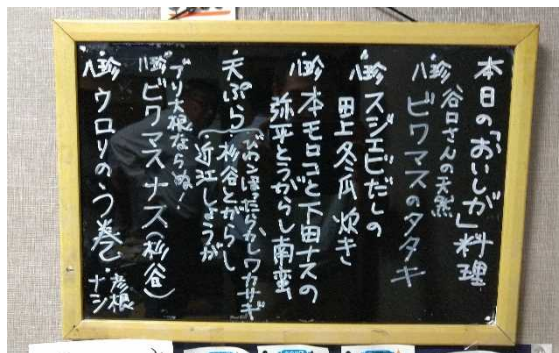
肖像権の観点から資料を一部修正しています。



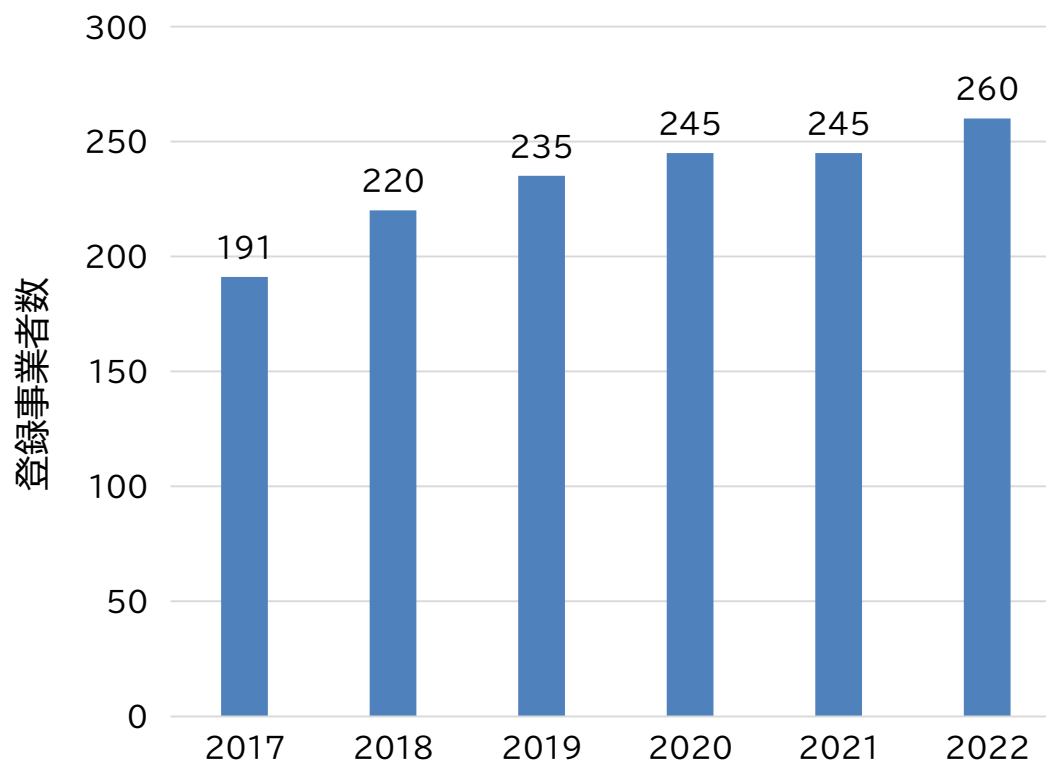
すし切り祭り(下新川神社・守山市)

- ナレズシなどを用いた祭礼があり、人々の絆の醸成に寄与

脅威3 食文化の衰退 湖魚を用いた食文化の継承と発展



琵琶湖マイスター登録事業者数の推移



県水産課調べ

- びわ湖産魚介類を扱う事業者数は増加傾向(目標達成)
- 琵琶湖地域内で、湖魚を食べられる機会が増加



琵琶湖システム
に育まれる 漁業と農業が織りなす

脅威3 食文化の衰退 湖魚を用いた食文化の継承と発展

県域のご当地グルメ「びわ湖魚グルメ」の開発

参加店舗数 30

開発メニュー数 45



- 琵琶湖システムに関わる食材を、身近に味わってもらう機会の創出
- 生産者(守り手)と飲食店等事業者(繋ぎ手)のつながりを創出し、関係者の拡大を図る



米・里・湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖・システム

世界農業遺産保全計画（持続性を高める4本の柱）

近年、システムを弱体化させる様々な脅威に直面している。このため、脅威を4つの項目に分け、そこから導き出された課題に対応するため、保全計画に記述した「育てる」「守る」「伝える」「広める」「活かす」取組を進め、このシステムを次世代に継承していく。

脅威1 湖魚の産卵・成育環境の変化

（外来魚による食害、水草の異常繁茂、気候変動など）

- 資源管理型漁業の推進
- 食害の防除
- 産卵環境等の保全
- 環境こだわり農業
- 水源林の保全



資源管理
のチラシ

脅威2 担い手の減少

- 農業・漁業・林業における担い手の確保
- 6次産業化の推進
（農林水産業の魅力向上）



漁業研修

脅威3 食文化の衰退

- 湖魚を用いた食文化の継承と発展



漁業体験
調理体験

脅威4 社会組織の弱体化

- 人々の連携の推進
- 自然と人との関わり強化
- ツーリズムとの連携
- 世界とのさらなる連携



- 〈将来展望〉
- ① 多様な主体の一層の参画
 - ② 水質・生態系保全等を通じた内水面漁業と農業の両立
 - ③ 湖と陸のつながりを重視する価値の発信とさらなる国際貢献



琵琶湖システム
に育まれる 漁業と農業が結びなす

脅威4 社会組織の弱体化

水田がつなぐ人と生きものの“にぎわい”



田植え体験

肖像権の観点から資料を
一部修正しています。

生き物観察会



稲刈り体験



県外中学生の受け入れ



小学校等への出前講座

肖像権の観点から資料を
一部修正しています。

海外研修の受け入れ



滋賀・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖システム

脅威4 社会組織の弱体化

次世代を担う子どもたちへの継承



うみのこ



やまのこ



たんぼのこ

- 滋賀県独自のプログラムによる体験学習を実施
- 琵琶湖システムの学習教材を作成し、学校教育と連携
- 出前講座なども実施

世界農業遺産認定の効果

出前講座の依頼増加

2022年度:15件(8か月間)

2023年度:22件(5か月間(9月末時点))

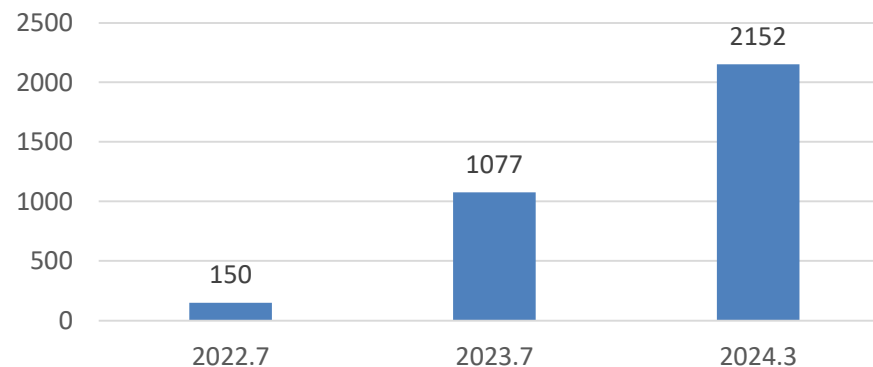


Instagramフォロワー数の増加

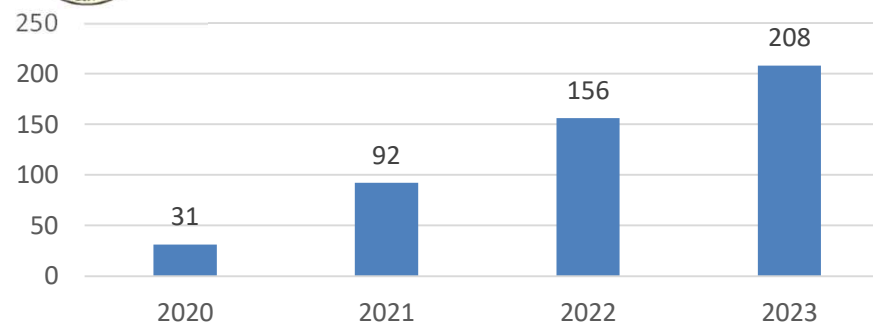
2022.7(認定直後): 約 150件

2023.7(約1年後): 約 1,000件

2024.3: 約2,150件



ロゴマーク利用件数(累積)





琵琶湖に育まれる 漁業と農業が結びなす
琵琶湖・システム

世界農業遺産の活用（地域経済の活性化）

- 教育旅行などの受け入れ
- 民間旅行会社によるツアー造成
- 漁業体験、田植え・稲刈り体験、
生き物観察会 など



県外中学生による魚のゆりかご水田の見学



明治大学(東京)からの受講→宿泊



漁業体験



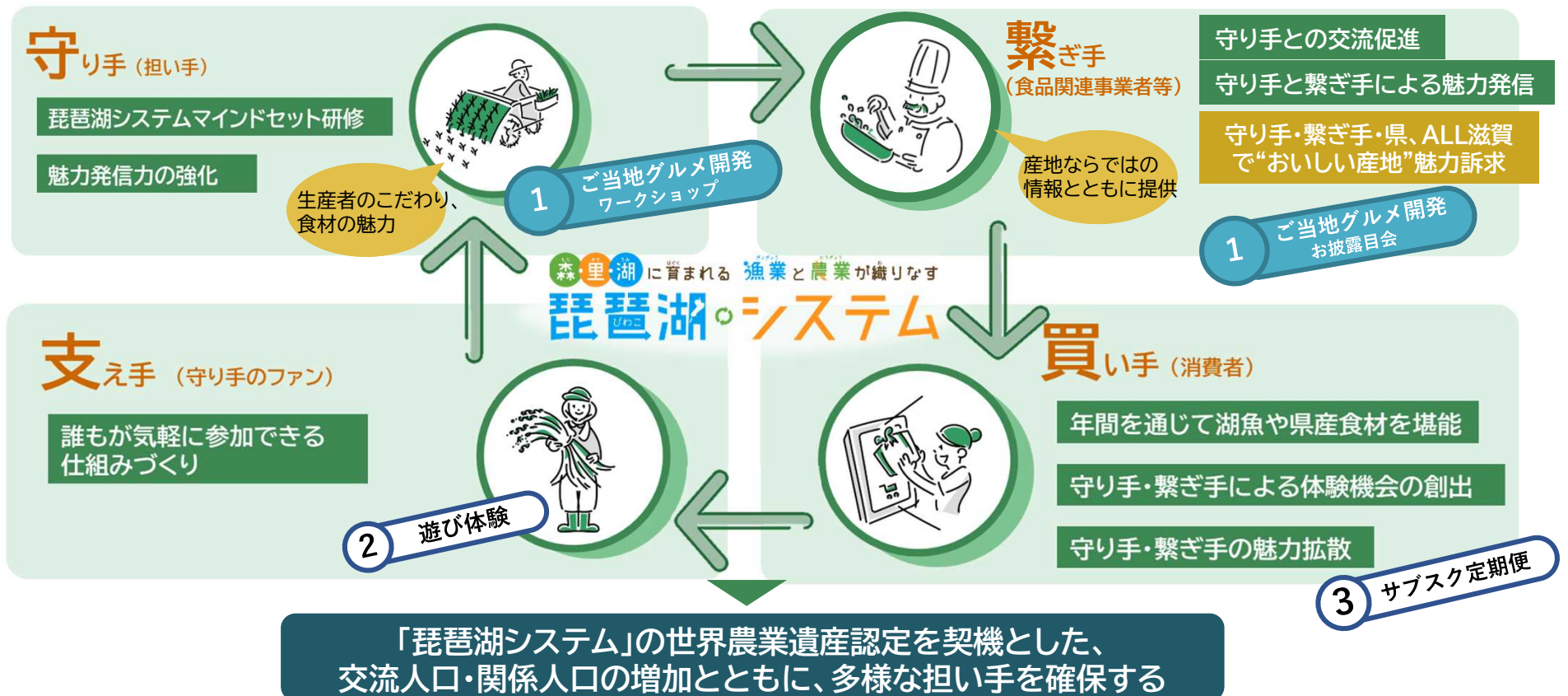
森・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム

世界農業遺産の活用（地域経済の活性化）

世界農業遺産「琵琶湖システム」を守り、活かし、次世代へ
～県産食材の魅力訴求とすそ野拡大～

目的

世界農業遺産を守り、活かし、次世代に繋げるために、多様な人々の関わりの創出によって、琵琶湖八珍（湖魚）や滋賀県産農産物の魅力をPRし消費拡大につなげる。





まとめ（総合的評価）

- 保全計画に掲げる36項目の取組のうち、22項目が「達成できた」、11項目が「概ね達成できた」という評価になったことから、現状においては、概ね琵琶湖システムの保全が図られているものと認識している。
- 各種PR活動やロゴマークの活用、インスタグラムなどのSNSを活用したプレゼントキャンペーン、学校・企業・団体への出前講座の実施等や商業施設での販売促進活動により、琵琶湖システムの認知度の向上や県産農水産物の販売拡大につながっている。
また、民間事業者による「琵琶湖システム」を巡るツアーなどの観光コンテンツの充実、琵琶湖地域への教育旅行の受入れなど、地域活性化に直接つながる成果も出てきている。
- 内水面漁業を含む世界各地の湖沼の課題解決に向けた貢献を果たすため、ベトナムやウズベキスタンなどからの研究者や行政関係者の来県を積極的に受け入れ、琵琶湖地域での教訓などを積極的に発信している。
- 一方で、琵琶湖の漁獲量等の漁業に関連する3項目については、一部改善がみられるものの、目標が達成できていないことから、水産資源を増やす取組と、漁業後継者の確保や漁業組織の再編強化、湖魚の流通促進などの取組を並行して進め、漁獲量の回復を目指していきたい。

世界農業遺産にかかる次期保全計画の策定について

■保全計画の作成

- ・「世界農業遺産への認定申請にかかる承認及び日本農業遺産の認定に関する実施要項」の規定により、5年間の保全計画を作成し、農林水産業システムの維持・保全等に係る活動を行うこととされている。
- ・現計画の期間が令和6年度までであるため、令和7年度からの次期保全計画を作成しなければならない。
- ・次期保全計画を作成するにあたっては、現計画の自己評価及び世界農業遺産等専門家会議（農水省設置）の助言事項を踏まえて作成することとされている。

■計画期間

現計画：令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度）
次期計画：令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度）

■現計画の構成

- 課題への対応策
 - 脅威・課題の概要と将来への展望
 - ・脅威及び課題の分析、脅威及び課題への対応策
- 予算とモニタリング方法
 - 保全計画の実施計画、モニタリングと評価、会員の役割
- 考察
 - 「育てる」「守る」「伝える」「広める」「活かす」取組
- 脅威、課題、対応策（基準別一覧）
- 添付資料（保全計画取組一覧）

■次期保全計画の作成方針

- ・現計画の構成等を継承しつつ、本文中のグラフや数値および取組一覧の指標（取組内容）や目標の数値について、時点修正を基本とする。
- ・ただし、現計画作成以降、新たに課題となった事項および今後課題となる事項、変更になった取組については、その内容および対応策を記載する（オーガニック農業の推進、漁協の合併による体制強化、カワウの分布管理など）。
- ・世界農業遺産等専門家会議（R5.11.1モニタリング受検）の助言事項を反映させる。

■意見聴取

幹事会、協議会会員から意見聴取する。詳細については、追って連絡する。

■スケジュール（案）

月	内 容
5月	・協議会幹事会への報告 ・幹事への意見聴取（幹事会后、1回目） ・生産者等への意見聴取（概要に対する意見） （滋賀県農業水産業基本計画の聞き取りと合わせて実施〔5月下旬〕）
6月	・協議会会員、県関係機関への意見聴取
～12月	・時点修正、庁内各課再修正
12月下旬	・幹事会意見聴取（2回目）
1～2月	・幹事会書面決議、総会（会員）への書面報告
2月	・近畿農政局への提出（2/28、暫定版）
3月	・農林水産省への提出（3/31、最終版）

「世界農業遺産」 保全計画（アクションプラン）の推進

「琵琶湖システム」を将来に渡って保全し、次世代へ継承するための計画（**計画期間：令和2年度～6年度**）

【概要】

世界農業遺産の5つの認定基準

- ①食料及び生計の保障
- ②農業生物多様性
- ③地域の伝統的な知識システム
- ④文化、価値観及び社会組織
- ⑤ランドスケープよびシースケープ

に沿って「琵琶湖システム」が抱える**課題（脅威）**を特定・分析。

その**対応策**を以下の**5つの視点**で整理。

「①育てる」「②守る」「③伝える」「④広める」「⑤活かす」

認定基準 1 食料及び生計の保障

課題（脅威）

①担い手の減少

②消費の減少

③漁獲量の減少

【GIAHS認定効果】

産業としての魅力向上

生産物の認知度と付加価値向上

6次産業化の加速化

対応策

活力ある琵琶湖漁業・農業等を
『育てる』

○新たな担い手の確保・育成
(漁業従事者等の育成等)

○6次産業化等の推進
(6次産業化・商工観光との連携等)

○農林水産物の魅力発信と消費拡大

(湖魚、環境こだわり農産物、県産木材のPR等)

○水産資源の適切な保全・管理
(資源管理型漁業、種苗放流、調査研究等)

認定基準 2 農業生物多様性

課題（脅威）

①水産有害生物による食害・水草の異常繁茂

②湖辺のヨシ帯の減少

③「環境こだわり農業」の取組の伸び悩み

④琵琶湖の水源を涵養する森林の多面的機能の低下

⑤自然と人との関わりの希薄化

【GIAHS認定効果】

環境保全意識の高揚

農業生物多様性のさらなる保全

対応策

生物多様性の恵みを『守る』

○水産有害生物の駆除促進

（外来魚・カワウ・水草対策等）

○ヨシ帯の再生・保全・活用

（ヨシ帯の再生、保全活動推進、ヨシ活用等）

○「環境こだわり農業」の取組拡大

（「魚のゆりかご水田プロジェクト」の取組拡大、
「環境こだわり農産物」の生産拡大と深化等）

○水源林の保全

（適切な森林整備、協働による森林づくり等）

○多様な主体による生物多様性の保全再生

（環境教育、環境保全再生活動の推進等）

認定基準 3 地域の伝統的な知識システム

課題（脅威）

①伝統的漁法に関する知識・技術の伝承者の減少

②水産資源保全や漁業調整に関する社会的仕組みの実効性の低下

③水質や生態系を保全するヨシ帯の減少

対応策

環境と調和してきた技術を『伝える』

○伝統漁法の知識・技術の継承

（伝統技術の維持、漁業体験機会の創出等）

○水産資源の適切な保全・管理

（資源管理型漁業、種苗放流、調査研究等）

○ヨシ帯の再生・保全・活用

（ヨシ帯の再生、保全活動推進、ヨシ活用等）

【GIAHS認定効果】

歴史的価値の再認識

保全への理解促進

認定基準 4 文化、価値観及び社会組織

課題（脅威）

①湖魚を中心とする伝統的な食文化の衰退

②湖魚を用いた祭礼によって結束力を高めてきた社会組織の弱体化

対応策

農山漁村地域の文化を『広める』

○食文化・伝統文化の継承

（体験講習、出前授業、食育等）

○集落を中心とした話し合いの推進

（集落役員等への働きかけ、リーダー育成等）

【GIAHS認定効果】 伝統文化の継承、郷土愛・地域の絆の醸成

認定基準 5 ランドスケープ及びシースケープの特徴

①地域内外の人々に伝えるメッセージの欠如

②世界との連携と国際貢献活動の停滞

琵琶湖システムを『活かす』

○国際的な貢献（GIAHS認定地域の連携等）

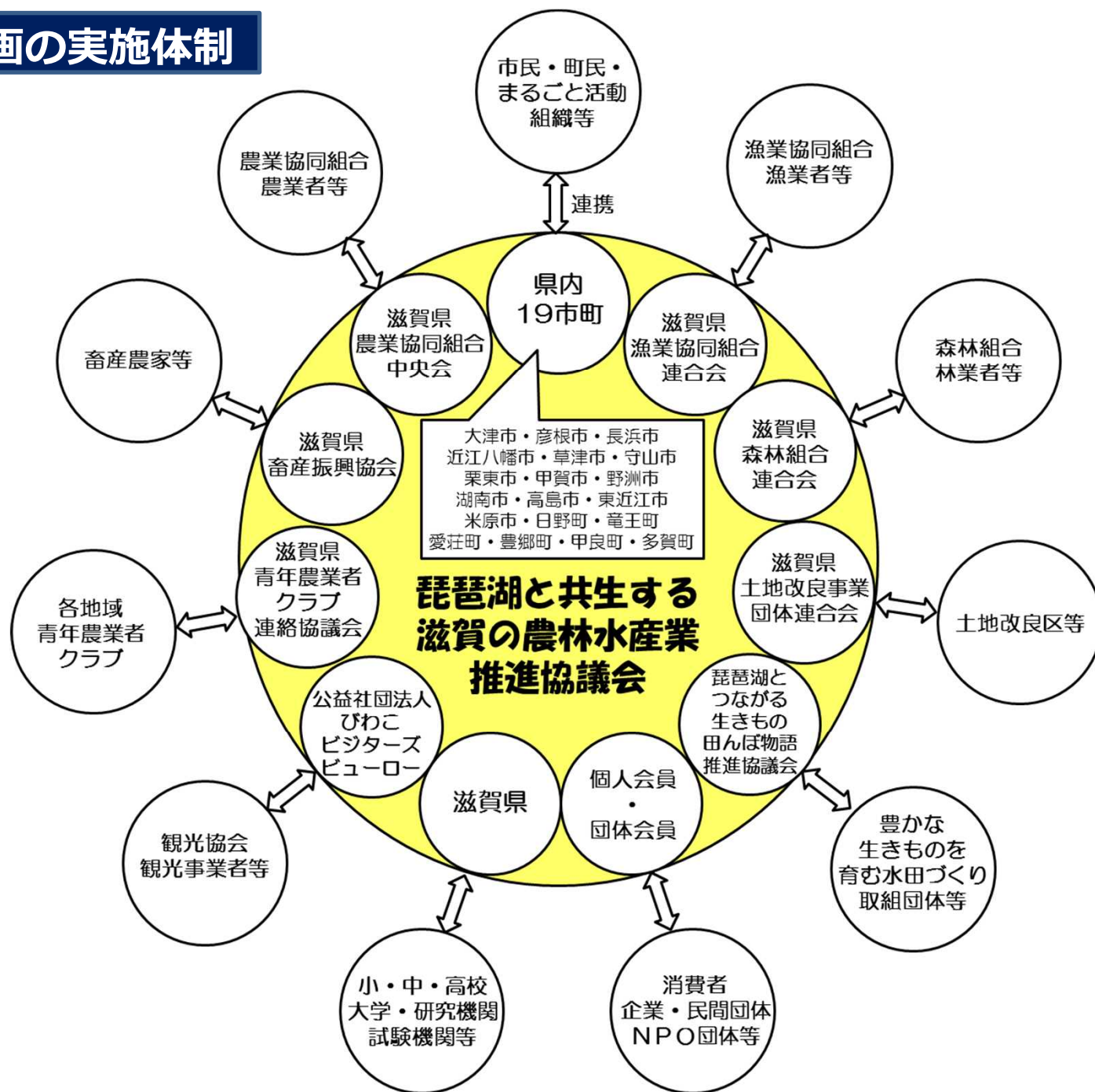
○システムの特徴を活かした観光振興

（教育旅行・エコツーリズムの推進等）

○琵琶湖システムの普及啓発（情報発信、ロゴマーク、語り部育成等）

【GIAHS認定効果】 地域振興
国際貢献（技術、知識の交流）

保全計画の実施体制



会員の役割

(1) 滋賀県の役割

市町や多様な主体とともに、琵琶湖の環境と調和した農林水産業の振興、生物多様性の保全、自然・文化・風土の継承など、当システムの保全・活用に総合的に取り組む。

(2) 市町の役割

地域内外への情報発信、資源管理、後継者育成、環境保全活動、産業振興、環境教育、国内外との交流等を進めるなど、地域振興策の実施および関係団体への支援に取り組む。

(3) 各団体の役割

地域内外への情報発信、資源管理、後継者の育成、環境と調和した生産物の生産振興・流通促進環境教育等を進めるなど、当システムの保全と活用を進める。

(4) 大学研究機関等の役割

地元自治体や地域住民と連携し、研究成果を地域に還元するとともに、その知見を活用し生産者や協議会等に助言を行うなど、当システムの保全・活用に貢献する。

(5) 企業・住民・消費者など協議会員の役割

当システムの保全・活用の取組への参加や、情報発信媒体を活用した魅力の発信、食べることで琵琶湖を守るeat ecoの実践など、琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業を支える。

琵琶湖システムにおける 世界農業遺産の認定の意味

継承するものは、
「伝統的な知恵の結晶である循環的な生業システム」

持続可能性の高い内水面漁業と農業の両立
(アジア・アフリカを中心に世界的に共通する課題)

継承にあたっては、「保全計画」の実現と
「新たな創造(人々の英知のシナジー効果)」が必要

保全計画が
めざすもの

消費者等、多様な主体の参画による
水質と生態系の保全をベースとした
内水面漁業と農業の良好な関係の発展

「保全計画」の推進と「新たな創造」のために、
世界農業遺産・日本農業遺産としての
魅力発信、認知度向上は不可欠

保全計画(アクションプラン)によって実現するもの

消費者等、多様な主体の参画による
水質と生態系の保全をベースとした
内水面漁業と農業の良好な関係の発展

近江の三方よしを超える「六方よし」

生産者

消費者

子ども

生きもの



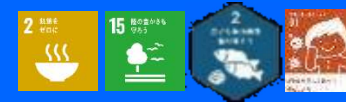
琵琶湖



世界の
内水面
漁業



👉 保全計画全体版はこちら



世界農業遺産「琵琶湖システム」を次世代につなぎ、活かす取組

【予算額 6.6千万円】



「学ぶ」「食す」「訪れる」の3つの柱により「琵琶湖システム」を身近に感じてもらえる機会を拡大し
農業・水産業に関わる「人のすそ野」を拡大する

学ぶ 「琵琶湖システム」を学ぶ

- ④ 親子での農業・漁業体験、県産食材の調理・喫食
- フローティングスクール等との連携による学習教材の更なる活用
- 学校・企業・団体への出前講座の実施



食す 「琵琶湖システム」を食す

- 首都圏・京阪神の飲食店等での「滋賀の幸」メニューフェアの開催
- ④ 県産野菜・湖魚を活用した外食・中食の推進
- ④ 学校給食への湖魚メニューの提供
- ④ 魚のゆりかご水田米の販路拡大・普及



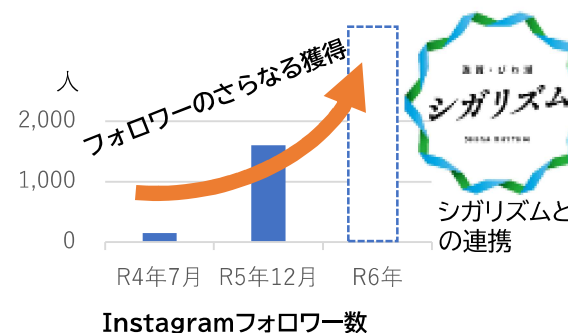
訪れる 「琵琶湖システム」を訪れる

- ④ 「琵琶湖システム」体験コンテンツの造成
- ④ 琵琶湖システムを支える地域と学校等の協働活動の促進
- アグリツーリズムの推進



発信する 「琵琶湖システム」の発信機能を強化

- ④ HPを活用した「学ぶ」「食す」「訪れる」アクションへの誘導
- ④ SNSによる魅力発信の強化



○生産者による情報発信の促進

生産者に対する情報発信
スキルアップ研修

農政水産部
農政課(内3811)
みらいの農業振興課(内3831)
水産課(内3872)
農村振興課(内3961)